

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3638549号

(P3638549)

(45) 発行日 平成17年4月13日(2005.4.13)

(24) 登録日 平成17年1月21日(2005.1.21)

(51) Int.Cl.⁷B60N 2/30
A47C 7/62

F I

B60N 2/30
A47C 7/62 Z

請求項の数 1 (全 15 頁)

(21) 出願番号	特願2001-318641 (P2001-318641)	(73) 特許権者	000005326
(22) 出願日	平成13年10月16日(2001.10.16)		本田技研工業株式会社
(65) 公開番号	特開2003-118452 (P2003-118452A)		東京都港区南青山二丁目1番1号
(43) 公開日	平成15年4月23日(2003.4.23)	(74) 代理人	100067356
審査請求日	平成14年9月26日(2002.9.26)		弁理士 下田 容一郎
		(74) 代理人	100094020
			弁理士 田宮 寛祉
		(72) 発明者	渡辺 晋介
			埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会
			社本田技術研究所内
		審査官	宮崎 敏長
最終頁に続く			

(54) 【発明の名称】 車両用シート

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

支持ブラケットにシートクッションの前部をヒンジ止めし、このシートクッションの後部にシートバックをヒンジ止めすることで、シートクッションにシートバックを折畳み、これらのシートバック及びシートクッションを車両前方に跳ね上げることのできる車両用シートにおいて、

跳ね上げたときにシートクッションの前端と支持ブラケットとを連結して、シートクッションの保持をすることのできるベルトを、備えとともに、

前記シートクッションを固定する際に用いるロック部材を前記シートクッションの後部下面から前後スイング自在に垂下させ、このロック部材の下端部にロッドをピン結合し、このロッドを前方へ延ばし、ロッドの先端を支持ブラケットにピン結合するときに、支持ブラケットの結合点を前記ヒンジ結合のヒンジ点の下位に且つ後方に設定することで、前記シートクッションを車両前方に跳ね上げるときに前記ロック部材をシートクッション下面に引き込むことを特徴とする車両用シート。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、シートクッションにシートバックを折畳み、これらのシートクッション及びシートバックを前方へ跳ね上げることができるようにした車両用シートに関する。

【0002】

10

20

【従来の技術】

車両用シートとして、例えば特公昭 63-47545 号公報「車両用の複列式折りたたみ座席の格納構造」が知られている。

上記技術は、同公報の第 1 図によれば、クッション部 18 にヒンジ装置 20 を介して背もたれ部 19 を取付け、クッション部 18 の下部前端に前脚 22 を取付け、この前脚 22 にフック 28 を取付け、クッション部 18 の下部後端に後脚 40 を取付けることで、クッション部 18 に背もたれ部 19 を折畳み、これらのクッション部 18 及び背もたれ部 19 を跳ね上げるようにした車両用シートである。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

上記の車両用の複列式折りたたみ座席の格納構造では、車両用シートを折畳んだり、又は跳ね上げたりしたときに車両用シートを止める何等かの固定部を必要とする。このような折畳んだり、又は跳ね上げたりした車両用シートはピラーから延出したベルト（連結部材）で車体側に固定するのが一般的である。

しかし、車両用シートが車両の前後にスライド可能なシートである場合には車体側の固定位置まで車両用シートを戻した上で固定しなければならず、不便である。

【0004】

そこで、本発明の目的は、車両用シートのスライド位置に関わらず車両用シートを固定できるとともに構造の簡単な固定構造を採用した車両用シートを提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するために請求項 1 は支持ブラケットにシートクッションの前部をヒンジ止めし、このシートクッションの後部にシートバックをヒンジ止めすることで、シートクッションにシートバックを折畳み、これらのシートバック及びシートクッションを車両前方に跳ね上げるようにした車両用シートにおいて、跳ね上げたときにシートクッションの前端と支持ブラケットとを連結して、シートクッションの保持をすることができるベルトを、備えるとともに、シートクッションを固定する際に用いるロック部材をシートクッションの後部下面から前後スイング自在に垂下させ、このロック部材の下端部にロッドをピン結合し、このロッドを前方は延ばし、ロッドの先端を支持ブラケットにピン結合するときに、支持ブラケットの結合点をヒンジ結合のヒンジ点の下位に且つ後方に設定することで、シートクッションを車両前方に跳ね上げるときにロック部材をシートクッション下面に引き込むことを特徴とする。

【0006】

跳ね上げたときにシートクッションの前端と支持ブラケットとを連結して、シートクッションの戻り防止をすることができるベルトを備えることで、跳ね上げ時のシートクッションを支持ブラケットに容易に保持できるようにする。

また、跳ね上げたときにシートクッションの前端と支持ブラケットとは近接するので、ベルトも短いもので足り、構造の簡素化を図れる。

例えば、前記車両用シートが前後スライド可能なシートである場合には、シートの前後位置に関わらずシートクッションの保持をできる。この結果、乗員の利便性の向上を図ることができる。

さらに、支持ブラケットの結合点をヒンジ結合のヒンジ点の下位に且つ後方に設定することで、ロック部材の引き込み角度が大きく設定することができる。

【0007】

【発明の実施の形態】

本発明の実施の形態を添付図に基づいて以下に説明する。なお、図面は符号の向きに見るものとする。

図 1 は本発明に係る車両用シートを搭載した車両の側面図である。

図中、10 は車両、11 は車体、12 は車体フロア、13 は前輪、14 は後輪、15 は前照灯、16 はルーフ、17 はフロントウィンド、18 はフロントバンパ、19 はリヤバン

10

20

30

40

50

パ、21はドアミラー、22は前ドア、23は後ドア、24はテールゲート、25はフロントフェンダ、26はクォータパネル、27はクォータウィンドであり、車両10は、1列目シート28、車両用シートとしての2列目シート30及び3列目シート70L、70Rから構成することで多彩なシートアレンジを可能にした車両である。

【0008】

図2は本発明に係る車両用シートの配列を示す側面図である。

1列目シート28は、運転席28R及び助手席28Lから構成する前後スライド可能なシートであり、2列目シート30は、後述するように前後スライド、折畳み及び跳ね上げ可能なベンチシートであり、3列目シート70L、70Rは、後述するように2列目シート30の下部に収納可能な左右分割シートである。

10

【0009】

図3は本発明に係る車両用シートの斜視図であり、2列目シート30を示す。

2列目シート30は、移動側である左右のインナレール32L、32R及び固定側である左右のアウタレール33L、33Rからそれぞれ構成する左右のシートレール31L、31Rと、これらのシートレール31L、31Rのインナレール32L、32Rにそれぞれ取付けた左右の支持ブラケット34L、34Rと、これらの支持ブラケット34L、34Rに渡したシートクッション35と、このシートクッション35にヒンジ36a、36bを介して角度調整可能に且つ折畳み可能に取付けた左のシートバック37Lと、シートクッション35にヒンジ36c、36dを介して角度調整可能に且つ折畳み可能に取付けた右のシートバック37Rと、これらのシートバック37L、37Rの左右にそれぞれ高さ調整可能に取付けたピロー38L、38Rと、シートクッション35の下部後端から垂下させた左右のロック部材41、41（右の41は不図示）と、これらのロック部材41、41をシートクッション35を跳ね上げたときにシートクッション35の下面に引き込む左右のロッド42、42（右の42は不図示）と、シートクッション35の左側と左の支持ブラケット34Lとの間に渡した1本のダンパ43と、左のシートレール31L側に設けることで任意の前後スライド位置でシートクッション35を固定するメインロック機構52と、シートクッション35の後方移動時にスライド可能範囲の途中でシートスライドを一旦停止させるサブロック機能53と、3列目シート70L、70R（図2参照）側からメインロック機構52をアンロック操作するためのリリース操作機構51と、からなる。

20

30

【0010】

なお、45、45は、シートクッションに折畳むたときに使用する折畳み用ノブ、46、46は跳ね上げ状態のシートクッション35を左右の支持ブラケット34L、34Rにそれぞれ止めるベルトである。

【0011】

図4は図3の4矢視図であり、2列目シート30の側面を示す。

左のインナレール32Lは、後端にロック部材41を止めるストライカ32aを備え、内部を覆うカバー32bを備える。右のインナレール32Rは、左のインナレール32Lと略同一構造のレールであり、詳細な説明を省略する。

左の支持ブラケット34Lは、シートクッション35の前端下部を回転自在に支持するヒンジ点としての回転支持部34aと、この回転支持部34aよりも下方且つ後方に設定したロッド42の一端を結合させる結合点としてのロッド支持部34bと、シートクッション35を跳ね上げたときに跳ね上げ状態でベルト46を掛ける掛け部34cと、を備える。右の支持ブラケット34R（図3参照）は、左の支持ブラケット34Lに略同一構成の部材であり、詳細な説明を省略する。

40

【0012】

なお、35aはシートクッション35のシートフレーム、41aはロッド42の他端を連結させるロック部材41の連結部、41bはロック部材41の解除レバーを示す。

【0013】

リリース操作機構51は、詳細を後述するメインロック機構52のメイン操作レバー61

50

に一端を取付けるワイヤ５５と、このワイヤ５５を車体後方に案内するためにメイン操作レバー６１よりも上方に設けた支点としての第１・第２ガイド５６、５７と、からなる。なお、５５ａはワイヤに一端に取付けた結合部、５５ｂはワイヤ５５の他端に形成した操作部である。

【００１４】

図５は本発明に係る車両用シートのスライドレール廻りの側面断面図であり、左のインナレール３１Ｌと、この左のアウタレール３３Ｌに構成するメインロック機構５２及びサブロック機構５３を示す。

メインロック機構５２は、インナレール３２Ｌに中間をピン結合することで一端をスイング可能に操作する操作レバー６１と、インナレール３２Ｌ側に中間をピン結合するとともに一端を操作レバー６１の他端にピン結合したロックレバー６２と、このロックレバー６２の他端に取付けたロック爪６３と、インナレール３２Ｌとロックレバー６２との間に掛け渡したトーションばね６４と、アウタレール３３Ｌに形成することでロック爪６３を係止する複数の係止孔３３ａ・・・（・・・は複数個を示す。以下同じ）と、からなる。

10

【００１５】

サブロック機構５３は、インナレール３２Ｌに一端を回転可能に取付けることで他端を操作するサブ操作レバー６５と、このサブ操作レバー６５の中間に一端を回転可能に取付けたサブロックレバー６６と、このサブロックレバー６６の他端に設けたサブロック爪６７と、このサブロック爪６７を止めるためにアウタレール３３Ｌに設けた１個のサブ係止孔３３ｂと、サブロックレバー６６に設けることでサブ係止孔３３ｂに向けてサブロック爪６７を付勢するバネ部材６８と、からなる。

20

【００１６】

２列目シート３０（図２参照）は、車体フロア１２側にアウタレール３３Ｌを取付け、シートクッション３５（図２参照）側にインナレール３２Ｌを取付け、このインナレール３２Ｌをアウタレール３３Ｌにスライド自在に嵌合し、アウタ・インナレール３３Ｌ、３２Ｌ間に、アウタレール３３Ｌにインナレール３２をロックするメインロック機構５２を介設するとともに後方移動時のみにロックが有効になるサブロック機構５３を介設した車両シートにおいて、サブロック機構５３を、インナレール３２Ｌに一端を回転可能に取付けて他端を操作するサブ操作レバー６５と、このサブ操作レバー６５の中間に一端を回転可能に取付けたサブロックレバー６６と、このサブロックレバー６６の他端に設けたサブロック爪６７と、このサブロック爪６７を止めるためにアウタレール３３Ｌに設けたサブ係止孔３３ｂとから構成したことのものとと言える。

30

【００１７】

図６は本発明に係る車両用シートの要部斜視図であり、２列目シート３０は、車両フロア１２（図２参照）側に設けた支持ブラケット３４Ｌにシートクッション３５の前部をヒンジで結合することで、このシートクッション３５を前方へ跳ね上げることができるようにした車両用シートにおいて、シートクッション３５を固定する際に用いるロック部材４１をシートクッション３５の後部下面から前後スイング自在に垂下させ、このロック部材４１の下端部にロッド４２をピン結合し、このロッド４２を前方は延ばし、ロッド４２の先端を支持ブラケット３４Ｌにピン結合するときに、支持ブラケット３４Ｌの結合点（ロッド支持部３４ｂ）をヒンジ結合のヒンジ点（回転支持部３４ａ）より下位に設定することで、シートクッション３５を車両前方に跳ね上げるときにロック部材４１をシートクッション３５下面に引き込むものであると言える。

40

【００１８】

シートクッションを前方へ跳ね上げるときに、シートクッションの後部下面に取付けるロック部材をシートクッション下面に引き込むことができれば、車両用シートからの突出が解消できるので好ましいことである。

そこで、ロック部材４１の下端部にロッド４２をピン結合し、このロッド４２を前方は延ばし、ロッド４２の先端を支持ブラケット３４Ｌにピン結合するときに、支持ブラケット３４の結合点（ロッド支持部３４ｂ）をヒンジ結合のヒンジ点（回転支持部３４ａ）より

50

下位に設定することで、シートクッション35を車両前方に跳ね上げるときにロック部材41をシートクッション下35面に引き込み、ロック部材41を突出した状態から寝かした状態に自動的に姿勢を直す。

これにより、前方へ跳ね上げた車両用シート2列目シート30から突出の解消を図るとともにシートアレンジを容易に行なうことのできる。この結果、乗員の利便性の向上を図ることができる。

【0019】

以上に述べた2列目シート30の作用を次に説明する。

図7(a)～(c)は本発明に係る車両用シートのサブロック機構の動作説明図である。

(a)において、インナレール32L側のシートクッション35(図6参照)を矢印a1の如く移動する。 10

(b)において、シートクッション35(図6参照)を移動した結果、サブロック爪67がサブ係止孔33bに矢印b1の如く嵌合し、インナレール32Lの動きは一旦停止する。

(c)において、サブ操作レバー65を矢印c1の如く持上げることで、再び矢印c2の如く後方へ移動することができる。これにより、2列目シート30(図2参照)の後方移動時に一旦停止させることで、例えば、3列目シート70L, 70R(図2参照)の乗員のくつろぎの妨げを回避できる。

【0020】

サブロック機構53は、インナレール32Lにサブ操作レバー65の一端を回転可能に取付け、サブ操作レバー65の他端を操作できるようにし、サブ操作レバー65の中間にサブロックレバー66の一端を回転可能に取付け、サブロックレバー66の他端にサブロック爪67を設け、このサブロック爪67をアウトレール33Lのサブ係止孔33aに止めるようにした。 20

すなわち、インナレール33にサブ操作レバー65を設け、アウトレール33Lにサブ係止孔33bを設け、これらのサブ操作レバー65及びサブ係止孔33bにサブロックレバー66を介在させることで、サブロック機構53の簡素化を図ることができる。この結果、コンパクトな車両用シート(2列目シート30)の実現を図ることができる。

【0021】

図8(a), (b)は本発明に係る車両用シートの第1作用説明図である。 30

(a)において、ワイヤ55の操作部55bを矢印a1の如く車体後方に引張る。

(b)において、操作部55bを引いた結果、メインロック機構52の操作レバー61は矢印b1の如く回転することができ、メインロック機構52のロックが解除される。この結果、2列目シート30を矢印b2の如く車体前方へ又は車体後方へスライドさせることができる。

【0022】

すなわち、2列目シート30は、シートクッション35の前部下方に配置した操作レバー61を上げることでロックを解除してシートを車両前後方向は任意に移動させることができる車両用シートにおいて、操作レバー61より上方位置に支点(第1・第2ガイド56, 57)を設け、操作レバー61にワイヤ55の一端を結びこのワイヤ55を支点(第1・第2ガイド56, 57)に掛けるとともに、ワイヤ55の他端をシートクッション35の後方まで延ばすことで、操作レバー61の操作をシートの後方からも可能にしたものであると言える。 40

【0023】

車両用シートの前後スライドは、着座した乗員が操作レバーを操作することで、スライド操作することが一般的である。例えば、シート列を3列に配置することで多様なシートアレンジを可能にした車両用シートなどにおいては、後の座席から前の座席を前後スライドさせたい場合が生ずる。

そこで、操作レバー61にワイヤ55の一端を結びこのワイヤ55を支点(第1・第2ガイド56, 57)に掛けるとともに、ワイヤ55の他端をシートクッション35の後方ま 50

で延ばすことで、操作レバー 6 1 の操作をシートの後方から操作できる。これにより、後のシートに着座した乗員も前のシートの前後移動操作をすることができる。この結果、乗員の利便性の向上を図ることができる。

また、操作レバー 6 1 にワイヤ 5 5 の一端を結びこのワイヤ 5 5 を支点（第 1・第 2 ガイド 5 6, 5 7）に掛けるとともに、ワイヤ 5 5 の他端をシートクッション 3 5 の後方まで延ばすだけなので、構造が簡単である。

【0024】

図 9 (a), (b) は本発明に係る車両用シートの第 2 作用説明図（前半）である。

(a) において、通常使用状態の 2 列目シート 3 0 の姿を示す。

(b) において、シートクッション 3 5 にシートバック 3 7 L を矢印 b 1 の如く折畳む。
なお、図 9 及び図 1 0 の説明では右のシートバック 3 7 R（図 3 参照）を省略して説明する。

10

【0025】

図 1 0 (a) ~ (c) は本発明に係る車両用シートの第 2 作用説明図（後半）である。

(a) において、解除レバー 4 1 b を操作することで、インナレール 3 2 L のストライカ 3 2 a からロック部材 4 1 を解除し、支持ブラケット 3 4 の回転支持部 3 4 a を支点にシートクッション 3 5 及びシートバック 3 7 L を矢印 a 1 の如く回転させる。

(b) において、シートクッション 3 5 及びシートバック 3 7 L を矢印 b 2 の如く跳ね上げることによるロッド 4 2 の引き込み作用で、ロック部材 4 1 を矢印 b 3 の如くシートクッション 3 5 下面に向けて回転させる。

20

【0026】

(c) において、さらに、シートクッション 3 5 及びシートバック 3 7 L を矢印 c 1 の如く跳ね上げることで、ロック部材 4 1 を矢印 c 2 の如くシートクッション 3 5 下面に引き込む。

この跳ね上げ状態で、支持ブラケット 3 4 の掛け部 3 4 c にベルト 4 6 を掛けることで、支持ブラケット 3 4 にシートクッション 3 5 を止める。

【0027】

2 列目シート 3 0 は、支持ブラケット 3 4 L にシートクッション 3 5 の前部をヒンジ止めし、このシートクッション 3 5 の後部にシートバック 3 7 L をヒンジ止めすることで、シートクッション 3 5 にシートバック 3 7 L を折畳み、これらのシートバック 3 7 L 及びシートクッション 3 5 を車両前方に跳ね上げることで、跳ね上げたときにシートクッション 3 5 の前端と支持ブラケット 3 4 L とを連結して、シートクッション 3 5 の戻りを防止をすることのできるベルト 4 6 を、備えたものであると言える。

30

【0028】

跳ね上げたときにシートクッション 3 5 の前端と支持ブラケット 3 4 L とを連結して、シートクッション 3 5 の戻り防止をすることのできるベルト 4 6 を備えることで、跳ね上げ時のシートクッション 3 5 を支持ブラケット 3 4 L に容易に保持できる。

また、跳ね上げたときにシートクッション 3 5 の前端と支持ブラケット 3 4 L とは近接するので、ベルト 4 6 も短いもので足り、構造の簡素化を図れる。

例えば、車両用シートが前後スライド可能なシートである場合には、シートの前後位置に関わらずシートクッション 3 5 の保持をできる。この結果、乗員の利便性の向上を図ることができる。

40

【0029】

次に、ヒンジ支点（回転支持部 3 4 a）及び結合点（ロッド支持部 3 4 b）の位置関係によるロック部材 4 1 の引き込み角度の違いを考察する。

図 1 1 (a) ~ (c) は本発明に係る車両用シートの動作を示す線図である。

(a) において、ロッド支持部 3 4 b を回転支持部 3 4 a の下位に且つ後方に設定する。シートクッション 3 5 とロック部材 4 1 の初期設定角を θ とすれば、シートクッション 3 5 を回転角 α だけ回転させると、初期設定角 θ は $\theta 1$ に変化する。

(b) において、ロッド支持部 3 4 b を回転支持部 3 4 a の下位に設定する場合には、シ

50

ートクッション35を回転角 α だけ回転させると、初期設定角 θ は θ_2 に変化する。

【0030】

(c)において、ロッド支持部34bを回転支持部34aの上位に設定する場合には、シートクッション35を回転角 α だけ回転させると、初期設定角 θ は θ_3 に変化する。

(a)～(c)から、 $\theta_1 < \theta_2 < \theta_3$ であることが明白である。すなわち、ロッド支持部34bを回転支持部34aの下位に且つ後方に設定する場合にはロック部材41の引き込み角度が最も多い。

【0031】

2列目シート30(図10参照)は、支持ブラケット34の結合点(ロッド支持部34b)を、ヒンジ結合のヒンジ点(回転支持部34a)の下位に且つ後方に設定したものであると言える。

10

支持ブラケット34の結合点(ロッド支持部34b)をヒンジ結合のヒンジ点(回転支持部34a)より下位に且つ後方に設定することで、ロック部材のより大きな引き込み量の確保を図ることができる。

【0032】

以下、本発明に係る車両用シートの3列目シート70Rを説明する。

図12は本発明に係る車両用シート(3列目シート)の斜視図である。

右の3列目シート70Rは、車両フロア12の支持ホルダ12aに回転自在に取付けた支持ステー71と、この支持ステー71に前端下部を回転自在に取付けたシートクッション72と、このシートクッション72の後端下部に回転自在に取付けることで車両フロア12側のストライカ12bに着脱自在にロックするロック部材73と、このロック部材73と支持ステー71の上方に延出した延出部71aとを結ぶことでシートクッション72を車両前方且つ車両下方に移動するときにロック部材73をシートクッション72側に引き込むリンク74と、一端をロック部材73に回転自在に取付けるとともに他端をシートクッション72に回転自在に取付けることでロック部材73の回転に同期させたL字型の後脚75と、シートクッション72にヒンジ76a、76bを介して折畳み自在に取付けたシートバック77と、このシートバック77に着脱自在に取付けたピロー78とからなる。

20

【0033】

なお、72aはシートクッション72のシートフレーム、81はストライカ12bからロック部材73を解除する解除レバー、82はシートクッション72にシートバック77を折畳むための折畳み用ストラップである。

30

また、左の3列目シート70Lは、右の3列目シート70Rに対して左右対称のシートである。

【0034】

図13は図12の13-13矢視図であり、3列目シート70Rの側面を示す。

3列目シート70Rは、シートクッション72にシートバック77を折畳み、これらのシートクッション72及びシートバック77を車両前方且つ車両下方に移動させることで車体フロア12に収納可能な車両用シートにおいて、シートクッション72前部を支持する支持ステー71と、シートクッション72の後部を支持するとともに車体フロア12にロックするロック部材73と、このロック部材73及び支持ステー71の間に介在させることでシートクッション72及びシートバック77を車両前方且つ車両下方に移動させるときにロック部材73をシートクッション72側に引き込むリンク74と、を備えたものであると言える。

40

なお、73aはロック部材73の支点を示す。

【0035】

ロック部材73及び支持ステー71の間に介在することでシートクッション72及びシートバック77を車両前方且つ車両下方に移動させるときにロック部材73をシートクッション72側に引き込むリンク74を設け、シートクッション72及びシートバック77を車両前方且つ車両下方に移動させることで車体フロア12に収納するときにロック部材7

50

3をシートクッション72側に引き込み、ロック部材73を突出した状態から寝かした状態に自動的に姿勢を直す。これにより、車体フロア12に折畳んだ状態のシートクッション72及びシートバック77を見栄えよく且つコンパクトに収納することができる。この結果、車室内空間を快適に且つ広く利用することができる。

【0036】

図14(a)～(c)は本発明に係る車両用シート(3列目シート)の作用説明図(前半)である。

(a)において、通常使用状態の3列目シート70Rの姿を示す。

(b)において、シートクッション72にシートバック77を矢印b1の如く折畳む。

(c)において、車体フロア12のストライカ12bからロック部材73を解除し、シートクッション72及びシートバック77を車両前方に押出すことで、支持ステー71をc1の如く回転させる。

10

【0037】

図15(a)～(c)は本発明に係る車両用シート(3列目シート)の作用説明図(後半)である。

(a)において、支持ステー71をa1の如く回転させることで、ロック部材73を矢印a2の如く回転させる。

(b)において、さらに、支持ステー71をb3の如く回転させることで、支点73aを中心としてロック部材73を矢印b4の如く回転させ、シートクッション72下面に引き込む。

20

(c)において、この結果、ロック部材73を突出した状態から寝かした状態にすることができ、車体フロア12にシートクッション72及びシートバック77をフラットに収納することができる。

【0038】

以下、本発明に係る車両用シート(2列目シート30及び3列目シート70L, 70R)のシートアレンジの1例を説明する。

図16(a)～(c)は本発明に係る車両用シートのシートアレンジの説明図(その1)である。

(a)において、通常使用状態の1列目シート28、2列目シート30及び2列目シート70R(70L)の姿を示す。

30

(b)において、2列目シート30のシートバック37L, 37Rを矢印▲1▼の如く折畳む。

【0039】

図17(a)～(c)は本発明に係る車両用シートのシートアレンジの説明図(その2)である。

(a)において、2列目シート30のシートクッション35及びシートバック37L, 37Rを矢印▲2▼の如く跳ね上げ、3列目シート70R(70L)のシートクッション72にシートバック77を矢印▲3▼の如く折畳む。

(b)において、3列目シート70R(70L)のシートクッション72及びシートバック77を矢印▲4▼の如く車両前方且つ車両下方に移動させる。

40

【0040】

図18(a)～(c)は本発明に係る車両用シートのシートアレンジの説明図(その3)である。

(a)において、3列目シート70R(70L)のシートクッション72及びシートバック77を車体フロア12にフラットに収納し、跳ね上げた状態の2列目シート30を矢印▲5▼の如く戻す。

(b)において、2列目シート30を戻すことで、折畳んだ3列目シート70R(70L)を2列目シート30の下部に納めることができ、その後、2列目シート30のシートバック37L, 37Rを矢印▲6▼の如く戻す。

【0041】

50

尚、実施の形態では図 1 3 に示すように、支持ステー 7 1 から延出部 7 1 a を延ばし、この延出部 7 1 a の先端にリンク 7 4 を結合したが、これに限るものではなく、支持ステーを車両前方に回転させたときにロック部材をシートクッションの下面に引き込む位置に取付けたものであればよい。

【0042】

実施の形態では図 4 に示すように、ワイヤ 5 5 を車体後方に案内するためにメイン操作レバー 6 1 よりも上方に第 1・第 2 ガイド 5 6, 5 7 (支点) を設けたが、これに限るものではなく、支点は操作レバーの解除方向に設けるものであればよい。

【0043】

実施の形態では図 5 に示すように、サブロック機構 5 3 をインナレール 3 2 L 側に構成したが、必ずしもインナレール 3 2 L である必要はなく、例えば支持ブラケットなどのインナレールに一体的に構成する部材の廻りに構成するものであてもよい。

10

【0044】

実施の形態では図 1 1 に示すように、結合点 (ロッド支持部 3 4 b) をヒンジ支点 (回転支持部 3 4 a) の下方、又は下方且つ後方に位置させたが、前記ヒンジ支点 (回転支持部 3 4 a) の下方は、結合点をヒンジ支点の下方且つ前方に位置させたものも含む。

【0045】

実施の形態では図 1 1 に示すように、ベルト 4 6 でシートクッション 3 5 を支持ブラケット 3 4 L に止めるようにしたが、必ずしも支持ブラケット 3 4 L である必要はなく、例えば、支持ブラケットに一体的に取付けたカバー、又はインナレールであってもよい。

20

【0046】

【発明の効果】

本発明は上記構成により次の効果を発揮する。

請求項 1 では、跳ね上げたときにシートクッションの前端と支持ブラケットとを連結して、シートクッションの戻りを防止をすることのできる ベルト を備えたので、跳ね上げ時のシートクッションを支持ブラケットに容易に保持することができる。また、跳ね上げたときにシートクッションの前端と支持ブラケットとは近接するので、ベルト も短いもので足り、構造の簡素化を図れる。

例えば、前記車両用シートが前後スライド可能なシートである場合には、シートの前後位置に関わらずシートクッションの保持をできる。この結果、乗員の利便性の向上を図ることができる。

30

さらに、支持ブラケットの結合点をヒンジ結合のヒンジ点の下位に且つ後方に設定したので、ロック部材の引き込み角度が大きく設定することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明に係る車両用シートを搭載した車両の側面図

【図 2】本発明に係る車両用シートの配列を示す側面図

【図 3】本発明に係る車両用シートの斜視図

【図 4】図 3 の 4 矢視図

【図 5】本発明に係る車両用シートのスライドレール廻りの側面断面図

【図 6】本発明に係る車両用シートの要部斜視図である。

40

【図 7】本発明に係る車両用シートのサブロック機構の動作説明図

【図 8】本発明に係る車両用シートの第 1 作用説明図

【図 9】本発明に係る車両用シートの第 2 作用説明図 (前半)

【図 10】本発明に係る車両用シートの第 2 作用説明図 (後半)

【図 11】本発明に係る車両用シートの動作を示す線図

【図 12】本発明に係る車両用シート (3 列目シート) の斜視図

【図 13】図 1 2 の 1 3 - 1 3 矢視図

【図 14】本発明に係る車両用シート (3 列目シート) の作用説明図 (前半)

【図 15】本発明に係る車両用シート (3 列目シート) の作用説明図 (後半)

【図 16】本発明に係る車両用シートのシートアレンジの説明図 (その 1)

50

【図 17】 本発明に係る車両用シートのシートアレンジの説明図（その 2）

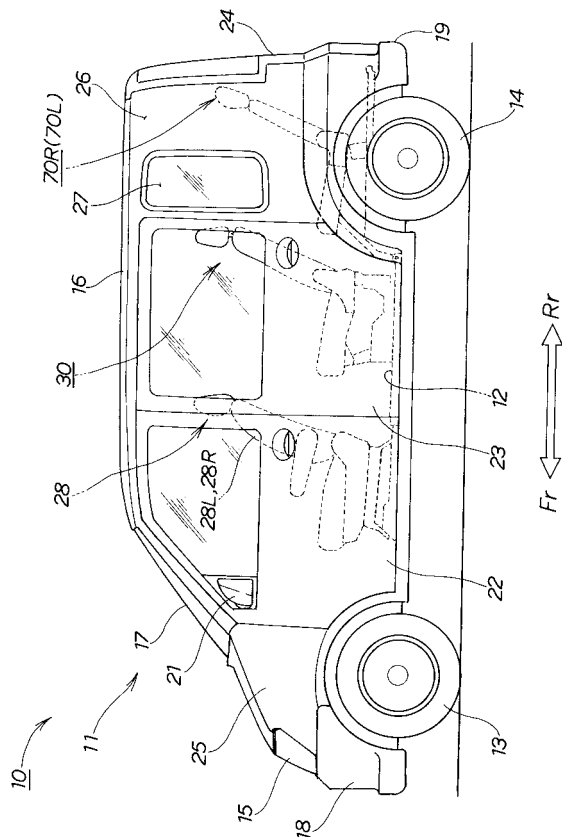
【図 18】 本発明に係る車両用シートのシートアレンジの説明図（その 3）

【符号の説明】

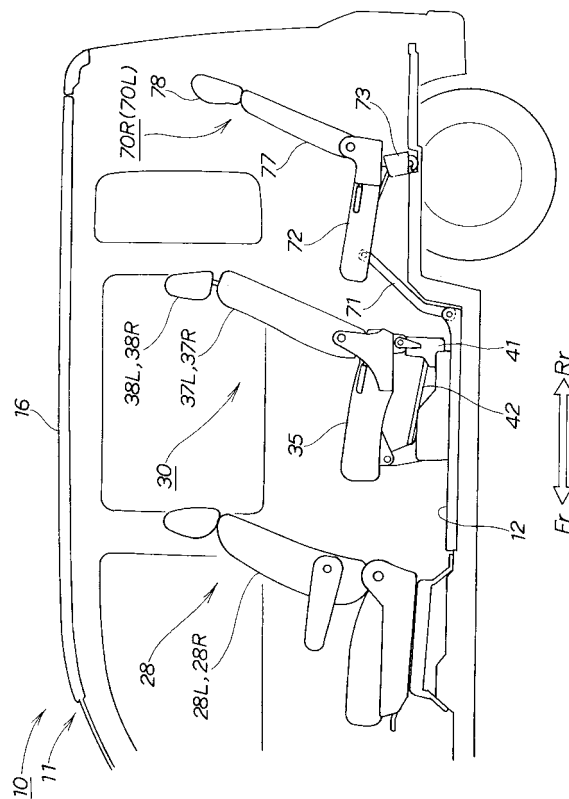
10…車両、12…車体フロア、30…車両用シート（2列目シート）、32L, 32R…インナレール、33L, 33R…アウトレール、33b…サブ係止孔、34L, 34R…支持ブラケット、34a…ヒンジ点（回転支持部）、34b…結合点（ロッド支持部）、35…シートクッション、37L, 37R…シートバック、41…ロック部材、42…ロッド、46…連結部材（ベルト）、53…サブロック機構、55…引張り部材（ストラップ）、56, 57…支点（第1・第2ガイド）、61…操作レバー、65…サブ操作レバー、66…サブロックレバー、67…サブロック爪、70L, 70R…車両用シート（3列目シート）、71…支持ステー、72…シートクッション、73…ロック部材、74…リンク、77…シートバック。

10

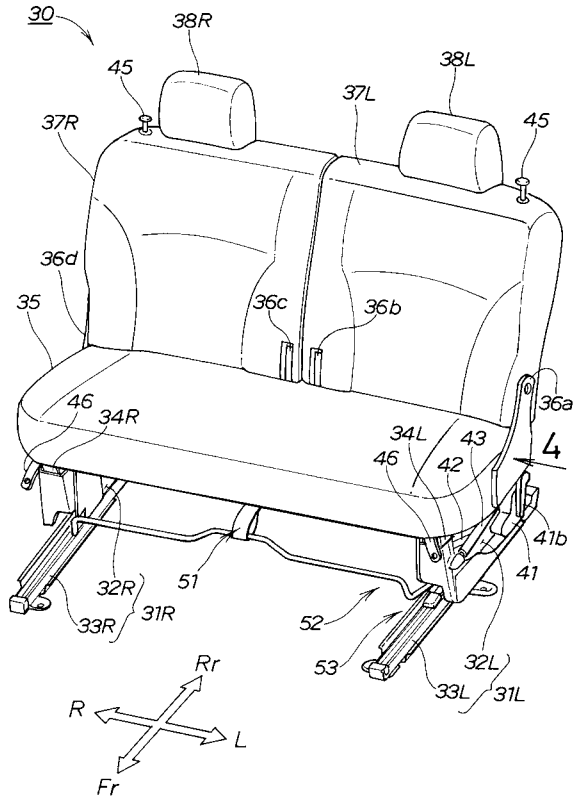
【図 1】



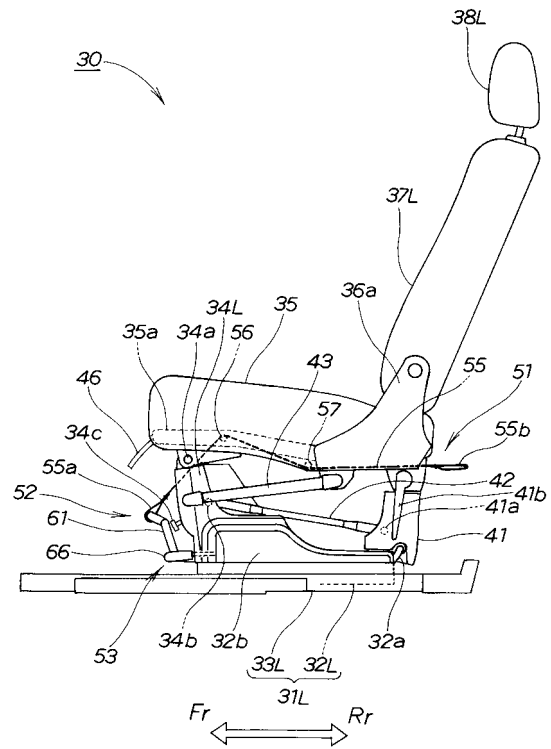
【図 2】



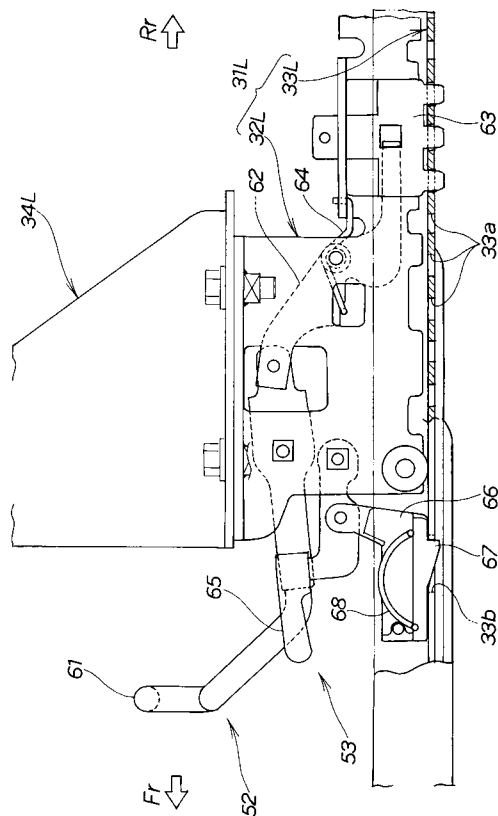
【図 3】



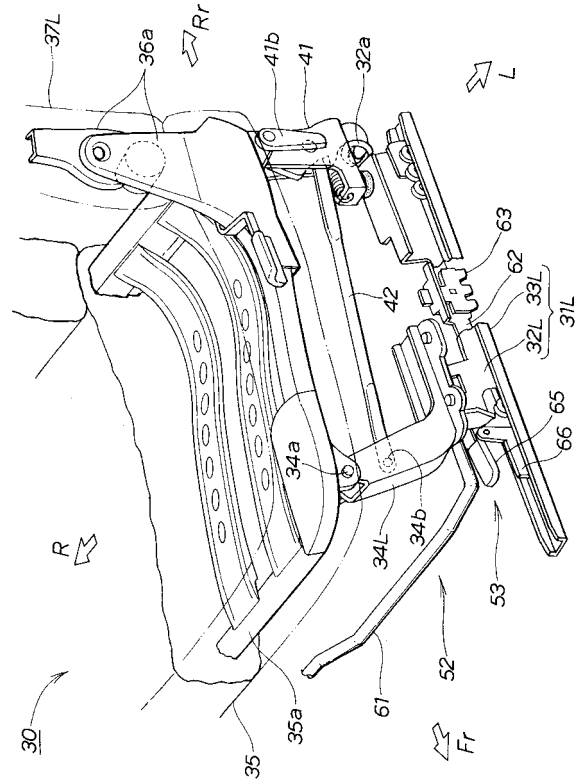
【図 4】



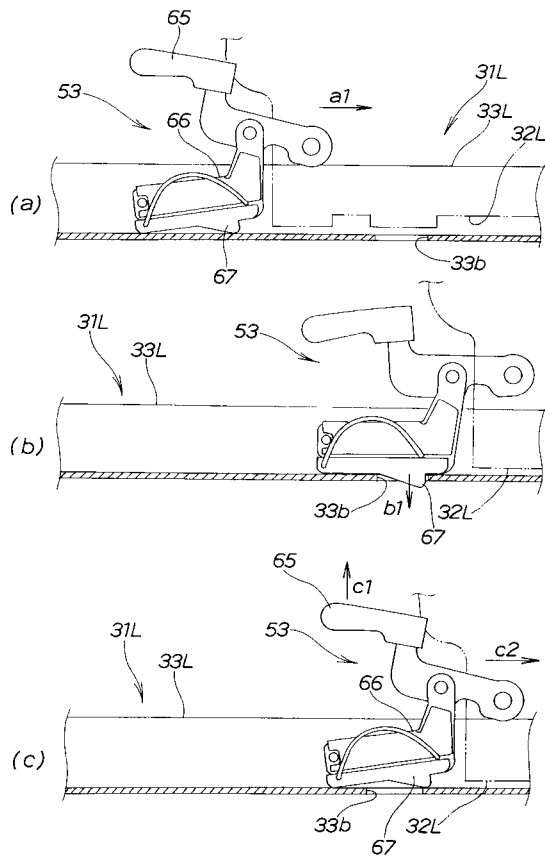
【図 5】



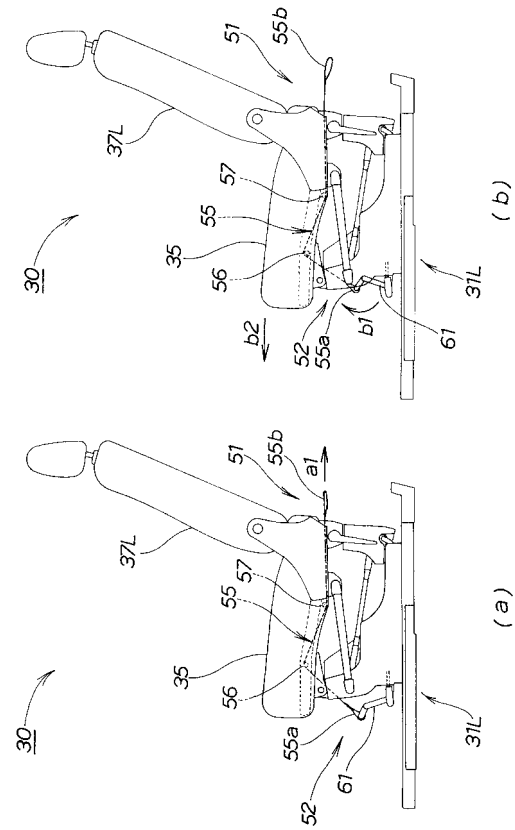
【図 6】



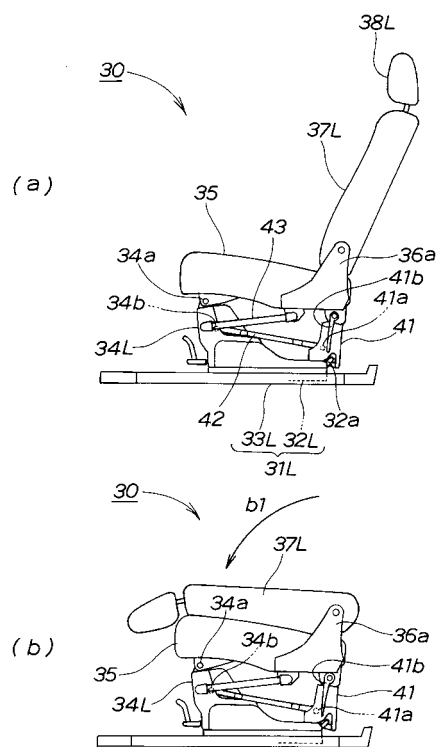
【図 7】



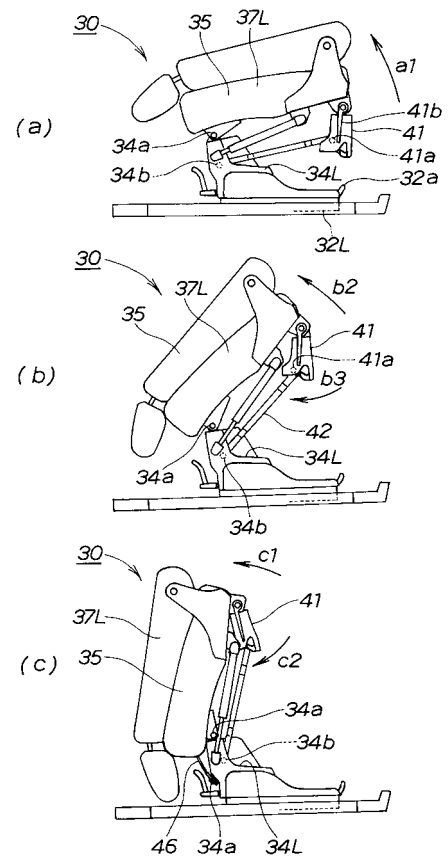
【図 8】



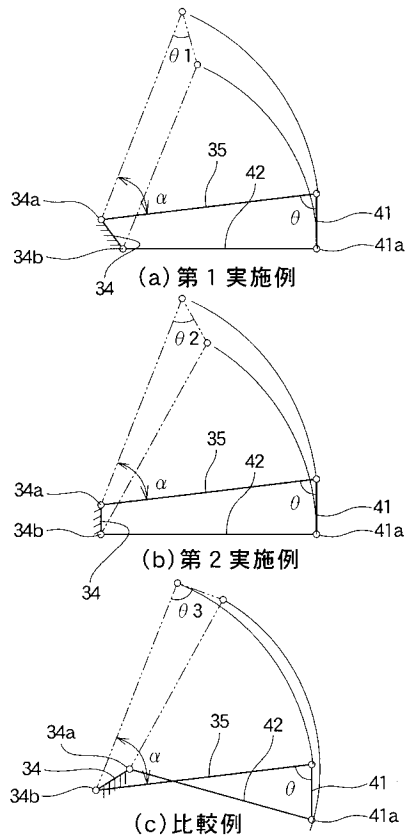
【図 9】



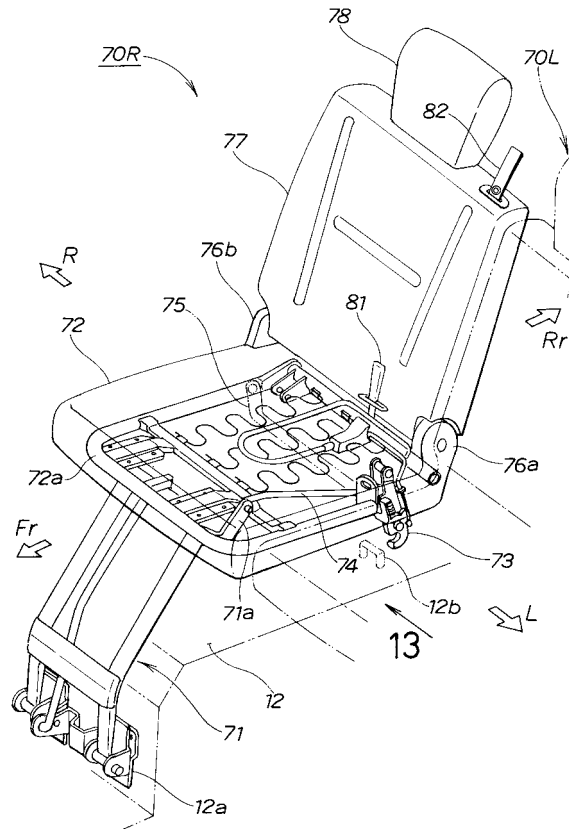
【図 10】



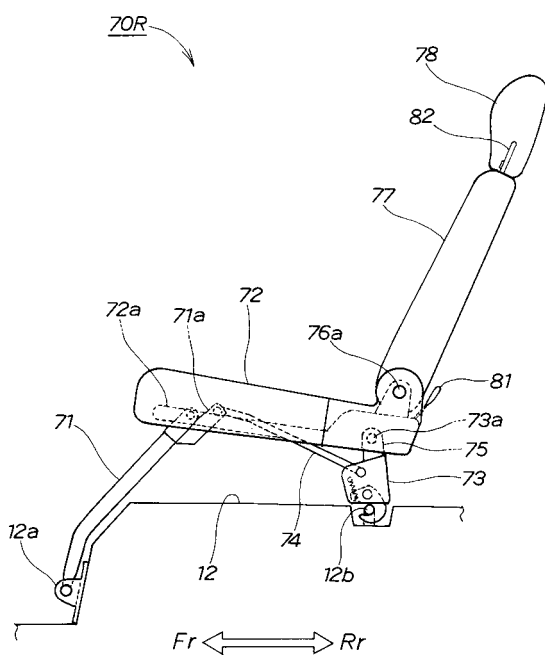
【図 1 1】



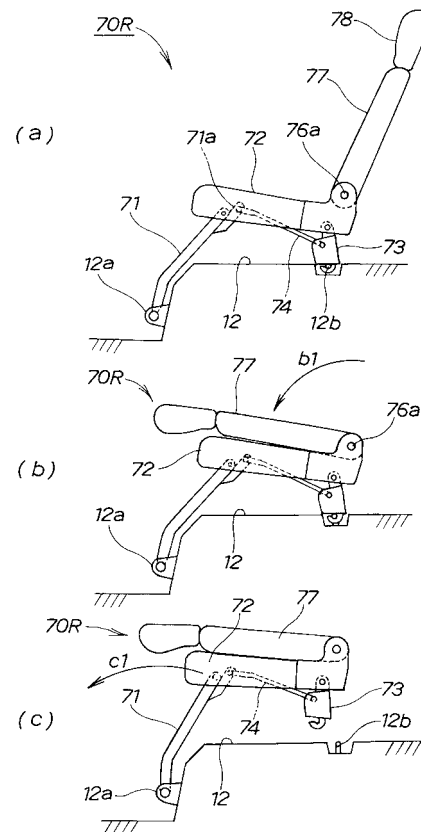
【図 1 2】



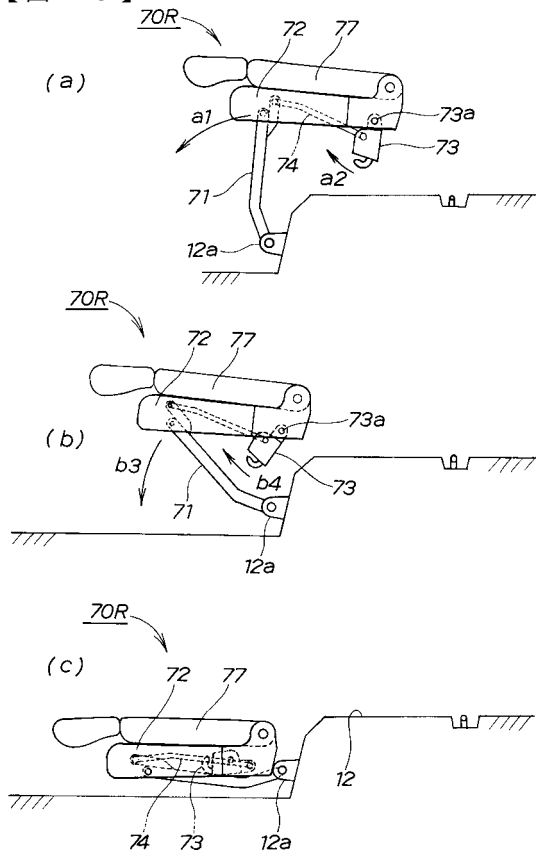
【図 1 3】



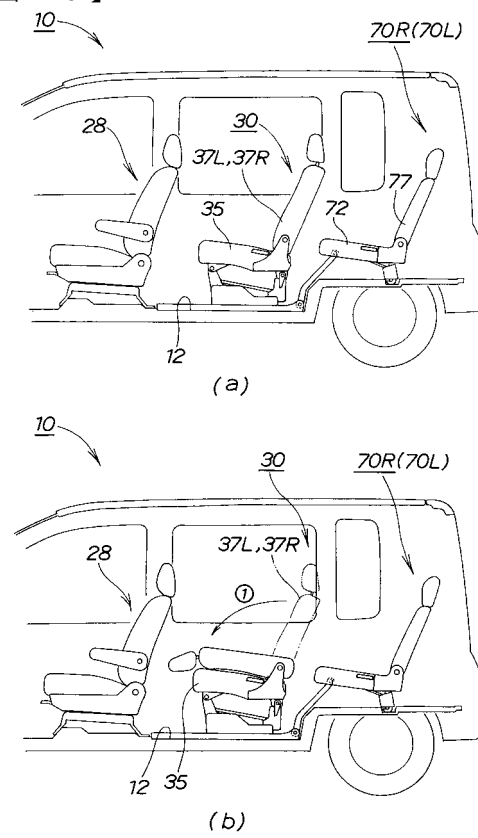
【図 1 4】



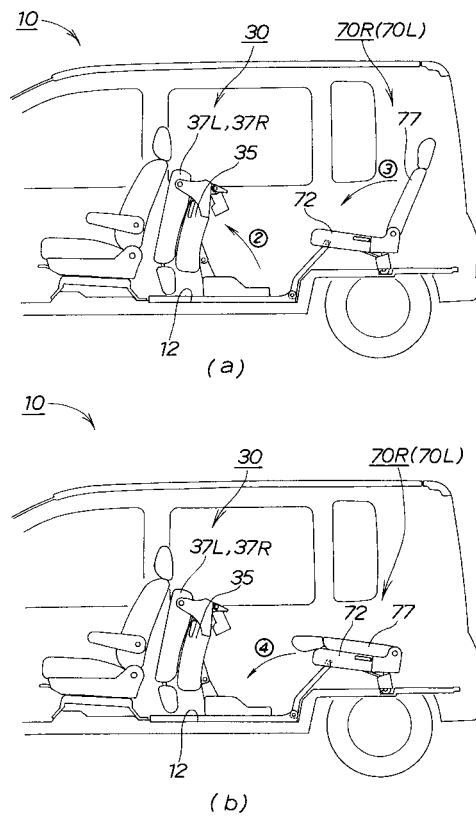
【図 15】



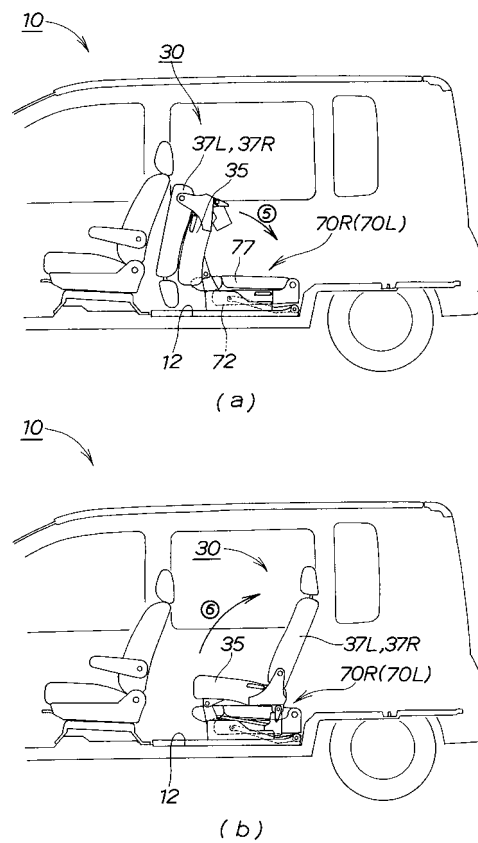
【図 16】



【図 17】



【図 18】



フロントページの続き

- (56)参考文献 実公昭63-017712 (JP, Y2)
実公昭63-047545 (JP, Y2)
特開平11-123969 (JP, A)
米国特許第2777731 (US, A)

- (58)調査した分野(Int.Cl.⁷, DB名)
B60N 2/00 - B60N 2/72
A47C 7/62